

島田正路氏著書「古事記と言霊」より抜粋

2021 年始めにあたり、言霊について整理しましょう 9

その 248

言霊子音 6

子音まとめ

古事記で「天津神 諸々の命」と言われます先天 17 神、17 言霊の活動が起こり、それが 1 つの考えにまとまり（津島）その考えが言葉に組まれて 口で 音声として発音され（佐渡の島）その声が 空中を飛び、人の耳に聞かれ、復誦検討されたのち、「こうゆう事だったのだな」と了解され、心と 言葉の循環が 一段落して、言葉としての 真名が再び最初の先天に帰ります。

以上のように一つの発想が言葉となって発生され、それが耳で聞かれ確認・納得されて初めて 1 つの出来事が決定されます。子である現象の実相が生まれます。

人間の心はこのように循環して現象を生みますが、この心の一循環を詳しく正確に観察しますと 全

部で 32 の工程があり、その 1 つ 1 つの工程が以上説明してきました 32 の子音で示されるのです。

人間の頭脳中に起こった一つの発想が、事実となって生まれてるまでに 32 の子音で示される工程をたどることはお分かりいただけたことと思いますが、その生まれる事実を構成する最小単位がまたその 32 の子音である、ということです。

これはなんとも奇妙で巧妙なことでありますが、全くの事実です。この奇妙であるが事実としてあること、これも心の最小単位である言霊にして初めてあり得ることであって、前にも申しましたように「言霊の幸倍さちへ」と呼んでいます。この言霊の原理の「妙」をしっかり御記憶願いたいと思います。

おやまとよあきつしま
大倭豊秋津島またの名を天つ御虚空豊秋津根別

以上発生された言葉が空中を飛び、耳で聞かれて確認され現象が確定するまでの心の区分、志那都比古の神よりおおげつひめおおげつひめの神まで、フモハヌ・ラサロレノネカマナコの 14 言霊の位置を大倭豊秋津島と呼びます。

ここまでで五十音の言霊が全部勢揃いしますので 大和（大倭）であり、それがすべて豊かに明らかに現われる（豊秋津） 区分（島）というわけであります。それはまた先天より（天つ御虚空）豊かに、（豊）明らかに（秋）現れた（津）音（根）の区分（別）でもありますので、天つ御虚空豊秋津根別とも呼ばれています。

「注一」 心の一循環は文章で説明すると長くなることになるが、人の発想から確認まで実際には一瞬の間であることが多い。この心の循環を仏教の天台宗では一念と呼ぶその一念の内容は説明せず、ただ数理で示し一念三千という。

その 249 につづく